

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1576400566
法人名	社会福祉法人愛宕福祉会
事業所名	グループホームせきかわ
所在地	新潟県岩船郡関川村大字湯沢1826-2 (電話) 0254-64-3377

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20 年 10 月 25 日

【情報提供票より】(20 年 9 月 18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
	常勤 7 人、非常勤 1 人、常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	平屋 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	(光熱水費)11300 (金銭管理費)200 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 300 円	昼食	300 円
	夕食 300 円	おやつ	50 円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要 (20 年 9 月現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5		要支援2			1 名
年齢	平均 82.6 歳	最低	57 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立坂町病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飯豊連峰や胎内の山々、荒川の清流や田園風景を望める自然豊かな場所に、「グループホームせきかわ」はある。同一敷地内には同法人が設置したケアハウスがあり、協力体制が整えられている。また、同法人が運営する複数のグループホーム間で管理者同士が話し合う機会が持たれている。村上・岩船地区のグループホーム数か所でも勉強会や交歓会を実施しており、サービスの向上や職員のストレス軽減の場として活用している。

利用者は、それぞれがゆったりと思いいに一日を過ごしている。一人で外に出かけようとする利用者も複数おられるが、玄関に鍵をかけることなく、職員が温かく寄り添って対応しており、利用者の権利を守り、一人ひとりを尊重することを大切にケアが実践されている。

温泉地に隣接しており、近隣住民との日常的な交流が難しい立地であることもあり、地域との関係づくりに苦慮しているが、サービス向上への意欲は高く、今後、地域の認知症ケアの中核としてその役割の発揮が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえて改善に取り組んだ。「運営理念の啓発」に向けては、広報誌の発行を検討している段階である。「介護計画への入居者、家族の意見の反映」については、センター方式のアセスメントシートへの記入の協力を働きかけ、希望・要望を引き出すよう努めている。「食事の支援」については、職員が利用者と同じものを一緒に食べる意義について法人本部との話し合いが進行しているということなので、今後に期待したい。「口腔内の清潔」については、無理強いのないよう個々に応じた歯磨きやうがいの声かけをし、清潔保持に努めている。「地域との交流」については、少しずつ協力を得られてはいるものの、立地条件もあり、地域の方から訪問してもらったり日常的に交流するには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価表を作成することで、改めて必要なこと、大切なことに気づくよい機会となった。評価結果は職員ばかりでなく、運営推進会議のメンバーや利用者の家族に配布して公表している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回開催され、利用者の普段の生活や行事の様子を報告したり、防災に対するアドバイスを受けたたり、ボランティアの情報や紹介を受けるなど、会議の場を運営に十分に活かしている。今後は、さらに充実した会議となるよう会議メンバーを増やす予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>3か月に1回、預かり金報告書と一緒に、入居者の食事、排泄、身体状況や生活の様子など、担当者から詳しく書いてお知らせしている。また普段の様子をお伝えするきらきら通信を発行してご家族に送付している。ご家族が面会に来られ時や連絡のときなどを捉えて、ご家族の意見や要望等を聞き取る努力をしている。ご家族からの要望から定期的なお知らせを発行するなど、苦情や要望に対して前向きに対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の老人福祉大会や高齢者運動会などの行事に出かけて参加している。買い物等で出かける際には知人に会うこともあり、良い交流の機会になっている。しかし、地域住民の方から訪問いただいたり、日常のお付き合いができるまでには至っておらず、近隣、地域との関係づくりに苦慮している。地域向けに広報誌を配布するといったことも検討中とのことなので、今後の取り組みに期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

↓ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「利用者が地域の一員として意識できるような生活支援」と、「一人ひとりの生活リズムに合わせたケアの実践」を掲げ、利用者一人ひとりを尊重し、地域の一員としての生活を支えていくことを大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に、職員で話し合っって理念に対しての身近な目標となる今期目標を作成し、理念と目標双方を日々意識しながらケアしている。できるだけ地域行事に参加するなどして利用者や地域とのつながりをつくったり、一人ひとりの生活リズムや個々の状態に合わせた生活を支援するよう努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	理念は色紙に書き、誰でも見れるようホーム内に掲示している。しかし、地域の方にとっては、隣接するケアハウスや、地域内にある他施設等とグループホームとの区別がつかない面もあり、近隣や地域への理念や役割の浸透へのさらなる取り組みが求められる状況である。		地域向けに広報誌を配布することも検討中であるので、今後のさらなる取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人福祉大会や高齢者運動会などの行事に出かけて参加している。買い物等で出かける際には知人に会うこともあり、良い交流の機会になっている。しかし、地域住民の方から訪問いただいたり、日常のお付き合いができるまでには至っておらず、近隣、地域との関係づくりに苦慮している。		町内会に加入するなどして、地域の一員として意識していただけるよう、できることから取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価表を作成することで、改めて必要なこと、大切なことに気づくよい機会となった。評価結果は職員ばかりでなく、運営推進会議のメンバーや利用者の家族に配布して公表している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催され、利用者の普段の生活や行事の様子を報告したり、防災に対するアドバイスを受けたり、ボランティアの情報や紹介を受けるなど、会議の場を運営に十分に活かしている。今後は、さらに充実した会議となるよう会議メンバーを増やす予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームが地域密着型サービスに移行する以前から役場の保健師とは連絡・相談できる体制があった。村の保健師が地域包括支援センターに移ってからもその良好な関係は継続しており、当該保健師が運営推進会議のメンバーとなっていることもあって、こまめに連絡している。また村の栄養士からも、献立を見てもらいアドバイスをもらっている。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を防ぐ重要性は職員全員が認識し、日々の対応や言葉がけなどで利用者を傷つけないよう意識して取り組んでいる。しかし、高齢者虐待関連法についての研修は十分ではない。		虐待防止の視点や発見時の対応などについてさらに理解を深められるよう、高齢者虐待関連法の意義や内容等についても研修機会を持つことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3か月に1回、預かり金報告書と一緒に、利用者の食事、排泄、身体状況や生活の様子など、担当職員から詳しく手紙を書いてお知らせしている。また普段のホームの様子をお伝えするホーム便り「きらきら通信」を発行し、家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や連絡する時などを捉えて、家族の意見や要望等を聞き取る努力をしている。家族からの意見を参考にして定期的なお知らせを発行するなど、苦情や要望については前向きに対応し運営に活かしている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全職員参加の職員会議を開催し、職員の意見や要望を聞き取る努力を行っている。職員の意見がなくてはならないものになっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を理解し、その維持に努力している。やむを得ず退職や異動等がある場合は、十分な引き継ぎ期間をおき、利用者のダメージを軽減するよう配慮している。また、退職した職員もその後継続的に遊びに来るなどしている。		
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人の作成した標準的な各種マニュアルがあり、その内容の主要なものを職員に周知している。感染症マニュアルは県のホームページからプリントアウトしたものを使用している。現在、法人内のグループホームで、グループホームに即したマニュアルの見直し、整備を進めている途中である。		法人の標準マニュアルの整備・活用もなされているが、利用者の特性や周辺環境など、各グループホームの事情を勘案した独自のマニュアル整備をしているところであり、今後の活用が期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用、異動等で研修が必要な人には、先輩職員が指導係、相談係となるシステム(プリセプター制度)を設け、職員個々に目標を定めて育成している。これにより、指導側の職員も一緒に成長できている。法人主催の研修は同じ内容で複数の会場・回数で実施されるため、全職員が参加することができる。外部研修については、限られた職員数の中で厳しい面もあるが、なるべく参加させている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの管理者会議を実施し意見交換をしている。また、村上・岩船地域のグループホーム管理者意見交換会や職員の交流会にも出席し、法人外のホームとも相互交流、情報の交換を行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は別室でゆっくりとれるよう配慮されている。職員の懇親会も年に数回行われている。管理者は日ごろから職員の様子を見て、悩みを抱えている職員へのフォローを心がけている。役割分担については、職員個々の得意なことや苦手なことを把握して反映するようにしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	電話での相談や見学、自宅訪問、日帰りや短期利用体験などの段階を経ながら、対象者本人とその家族が納得して入居できる対応を行っている。調査時も、次回入居予定の方が短期利用体験をしていた。今は夕方には家族の迎えで自宅に戻っているが、その方が「泊まって行こうかな」と思えるところまで関係性ができた段階で入居する体制でいるということであった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ズボンの裾上げや暖簾作りといった裁縫の技術、料理の刻み方や味付けの仕方、野菜の育て方、漬物の漬け方や管理の方法など、利用者から職員が生活文化を教わる場面が日常的にある。職員が利用者を人生の大先輩として尊敬し、それを基本に関わっていることが伺えた。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙などで、利用者の日常の様子を家族に伝え、情報を共有できるよう努めている。また、家族には受診の支援をお願いするなど、ホームと家族が協力して利用者の生活を支えている。遠方に住む家族が面会等に訪れた際には宿泊も可能である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	数年前からセンター方式のアセスメントの活用に取り組み、情報収集に努めている。本人、家族に「好きなことはなんでしたか」「続けてほしいことはなんですか」といった具体的な聞き方をすることで、その方の要望や希望を引き出せるよう働きかけている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの記入には家族にも協力してもらい、情報収集をしている。行きつけの美容院やお店にはできるだけ継続して行けるように配慮し、長年培った関係を断ち切らないよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントの情報を収集し、本人・家族からの意見や要望を踏まえて職員会議の機会に利用者一人ひとりのことを話し合っている。多くの職員の意見や気付きを出し合い、相談したうえで、計画作成担当者が介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、3か月に1回の評価を行い、介護計画の見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じた際は速やかに介護計画を見直し、変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回お話や歌のボランティアを受け入れたり、隣接のケアハウスの行事に参加して、利用者の楽しみごとの幅を広げるよう努めている。また、家族が付き添えない方の受診をホームで実施したり、対応に職員との相性の影響が大きい利用者について、その様子に応じて急遽勤務変更するなど、臨機応変な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関への受診としている。基本的には家族から受診の付き添いを行ってもらっており、その際にはホームでの様子を書いた連絡票を渡して、医師へ適切に情報提供をしている。家族が付き添えないときはホームで付き添い、受診の結果を家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所申請の時点から、法人全体で共有している「ホームにおける重度化の指針」を説明し、医療の度合いが大きくなってきたとき、食事量の低下が見られたときなど、段階を追ってその都度家族と話し合い、他施設等への移行も含め、対応を検討し共有している。また、重度化に対して職員の意識に差異があったため、職員アンケートを実施して意向や考え方を把握した。結果は、今後の対応や研修に活かす予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	最近男性職員が初めて配置されたことで利用者自身にもプライバシー意識が生まれ、職員も意識して関わっている。トイレ誘導は小声で行うなど、利用者の尊厳を大切にしている。個人情報については、利用目的や守秘義務等について家族にも十分に説明し、適切に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、それぞれのペースで思い思いに過ごしている。天気のいい日に「出かけた」という方が多い時は、急遽ドライブに出かけることもあり、利用者の希望にそった生活支援に努めている。茶碗や箸、湯呑などの食器は自宅で使っていたものを持参してもらっており、破損した場合はその人の好みを踏まえて新しいものを選んでいく。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに買い物に出かけ、野菜や魚を選んでもらっている。また畑からとってきたばかりの野菜を使った料理も行っている。利用者と一緒に調理を行っており、利用者は職員に切り方や味付けを伝授している。職員のうち、何名かは利用者とともに同じ食事を取っているが、お弁当を持参する職員もいる。		「利用者の生活の中の食事」への支援について、ホームでの方針や職員の考え方の統一を図ることが大切であると考えられる。法人本部とも話し合いを行っている最中ということなので、今後の取り組みに期待したい。
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	職員は利用者の様子を見ながら適切にトイレ誘導を行っている。認知力の障害が重い方でも、職員の支援により、布製の下着を着用してトイレでの排泄ができていく。しかし、ただオムツや紙パンツ等を使用しないことばかりを考えるのではなく、利用者の混乱を生むような無理な排泄誘導をしないよう、利用者一人ひとりの状態に応じた排泄用品を検討し、使用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能な体制である。その人に合わせてゆったりと入浴していただいております。温度調節も利用者個々に合わせている。就寝前に入浴を希望する方は現在いないが、希望があれば行える用意がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や料理の手伝い、畑仕事など、利用者それぞれに活躍できる場面を作っている。各居室にはほうきとちりとりがさり気なく置いてあり、自ら掃除道具を手にとれるような環境を整えている。天気の良い日の散歩やドライブ、地域行事への参加や買物などにより、毎日が単調にならないように工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホーム用に軽自動車があり、1日おきに食材の買物に利用者と一緒に出かけている。近くの小さなスーパーに行っており、馴染みの関係が作られている。天気の良い日は荒川の土手沿いを散歩して、季節の移り変わりや花などを楽しんでいる。大勢で出かけるときはケアハウスの車を借りることができる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内を活発に移動される方に対しても行動を制限せず、そっと職員が付き添ったり、夜眠れない方には添い寝するなど、身体拘束を行わないケアが実践されている。		今後、より職員の理解を深められるよう、身体拘束の具体的な内容やその影響、ケア方法などについて、研修や勉強会などの機会を設けることを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内を活発に移動され、外に出ようとされる方もおられるが、日中は玄関には鍵をかけず、職員が見守ったり共に行動するなどして対応している。玄関ドアを開け閉めするとチャイムが鳴るが、そのチャイムの音も小さくさり気ないものであり、場の雰囲気壊していない。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリハット報告が適宜作成され、その内容は職員会議で報告し、職員全員で検討している。以前に利用者が無断で外出され捜索したことがあり、これを教訓に台所に小窓を設置して死角を減らすなど、利用者のあらゆる事故を想定して、事故防止に向けて改善を行っている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時は隣のケアハウスから応援を得られる体制になっている。また、最近ケアハウスにAEDが設置され、ホームでも活用できることになった。平日頃から緊急時の対応については管理者から話をする場面はあるが、心配蘇生法や救急救命などの研修実施が定期的・継続的でない。また職員の中に、緊急時の対応についての不安も大きい。		いざという時にも対応できる知識と技術を確実に身につけられるよう、緊急時の対応訓練を定期的に、繰り返し積み重ねることが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	火災避難訓練をケアハウスと合同で年2回実施している。過去に大雨で避難勧告が出た際、避難場所として学校校舎の2階部分を指定され高齢の利用者の避難に苦労した経験をふまえて、行政の災害担当者との今後の対応も協議した。また、いざというときの食料品や必要物品はケアハウスに備蓄してある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々に記録され、利用者の健康管理に活かしている。その人の状態に合わせて、刻み食やお粥にしたり、とろみをつけるなどの対応がなされている。栄養バランスについては、役場の栄養士に献立を確認してもらい、アドバイスを受けている。また、偏食傾向のある方には補食を用いて、必要な栄養を確保できるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からは優しい光が差し込み、ホーム全体が適度に明るい。季節に応じた飾り付けを工夫し、玄関や食堂も親しみやすく落ち着いた雰囲気である。普段の様子の写真や利用者の作品なども壁に飾り、見て楽しめるようにしている。認知力の低下により何でも口に入れてしまう方がおられ、画鋸を口にする危険性があるので、掲示物は壁にホチキスで止めるなど安全面でも工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には家庭から持ち込まれた家具や寝具、家族の写真などが置かれている。持ち込み品が少ない利用者もいるが、その人らしい部屋作りに向けて、継続的に家族に働きかけを行っている。		